

2008年3月期 決算説明会



2008年5月15日



株式会社エージーピー

目 次

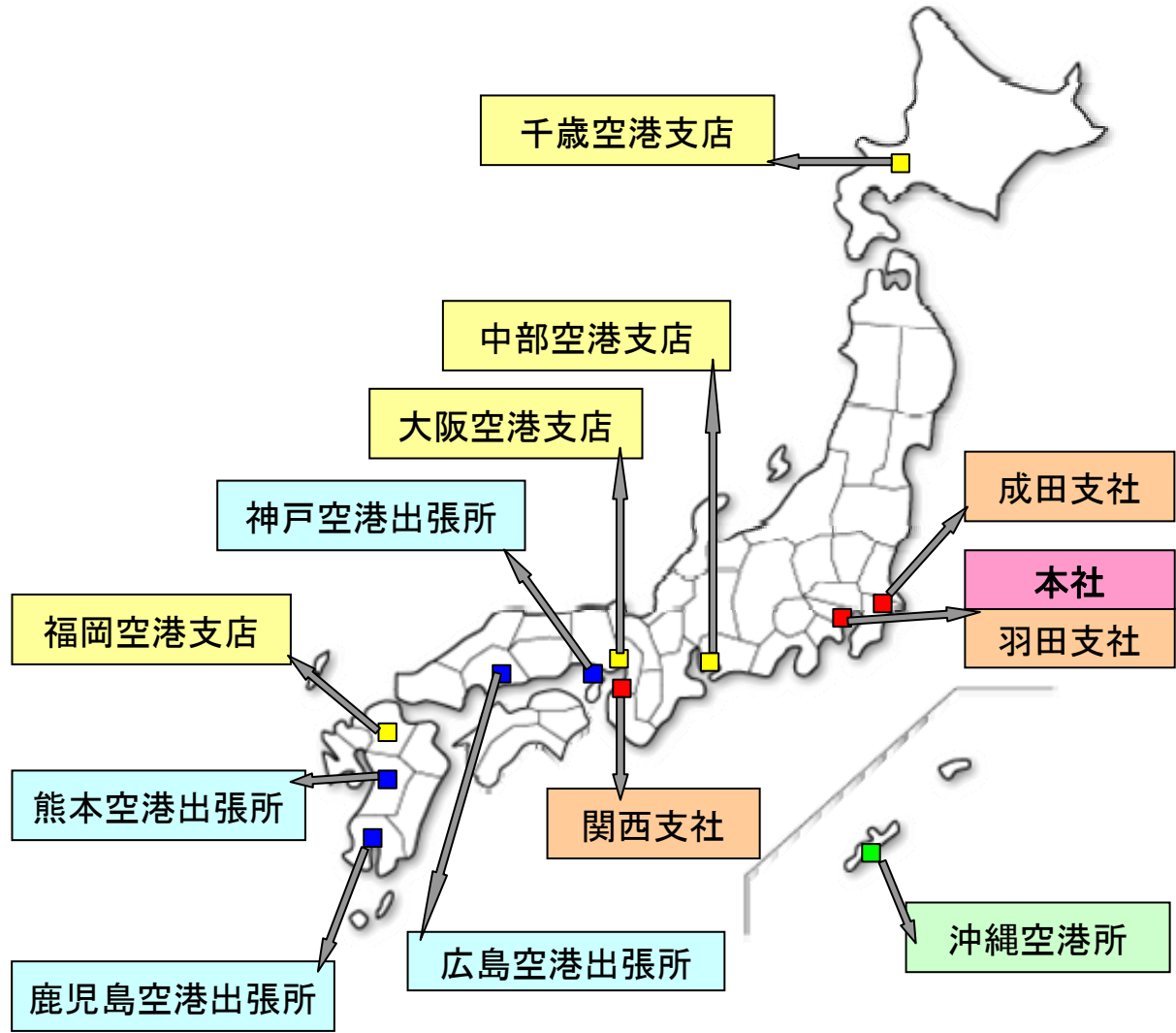
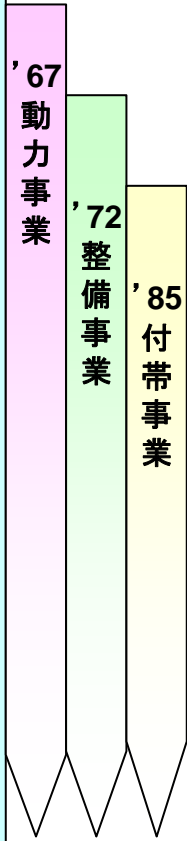
- はじめに
 - ・当社発展の軌跡
 - ・当社の事業概要
 - ・業績の推移

- 中期計画(2008年度～2010年度)
 - ・動力事業の概況と今後の取組み
 - ・整備事業の概況と今後の取組み
 - ・付帯事業の概況と今後の取組み
 - ・中期目標
 - ・中期収支計画
 - ・中期設備投資計画
 - ・経営の基本方針

- 2008年3月期 業績報告(連結)
 - ・2008年3月期業績(対前年実績)
 - ・設備投資とキャッシュフロー
 - ・2009年3月期業績見通し(セグメント売上、収支)

当社発展の軌跡

- '65 設立
- '67 伊丹
- '68 福岡
- '71 千歳
- '78 成田
- '83 羽田
- '92 成田Ⅱ期
新千歳
- '93 羽田西側
- '94 関西
- '99 那覇
- '02 広島
- '04 中部
- '05 神戸
鹿児島
- '07 熊本

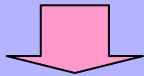


当社の事業概要

動力事業



APU (Auxiliary Power Unit)



GPU (電力供給)

整備事業



手荷物搬送設備 (BHS)



旅客搭乗橋設備 (PBB)

フードカート事業

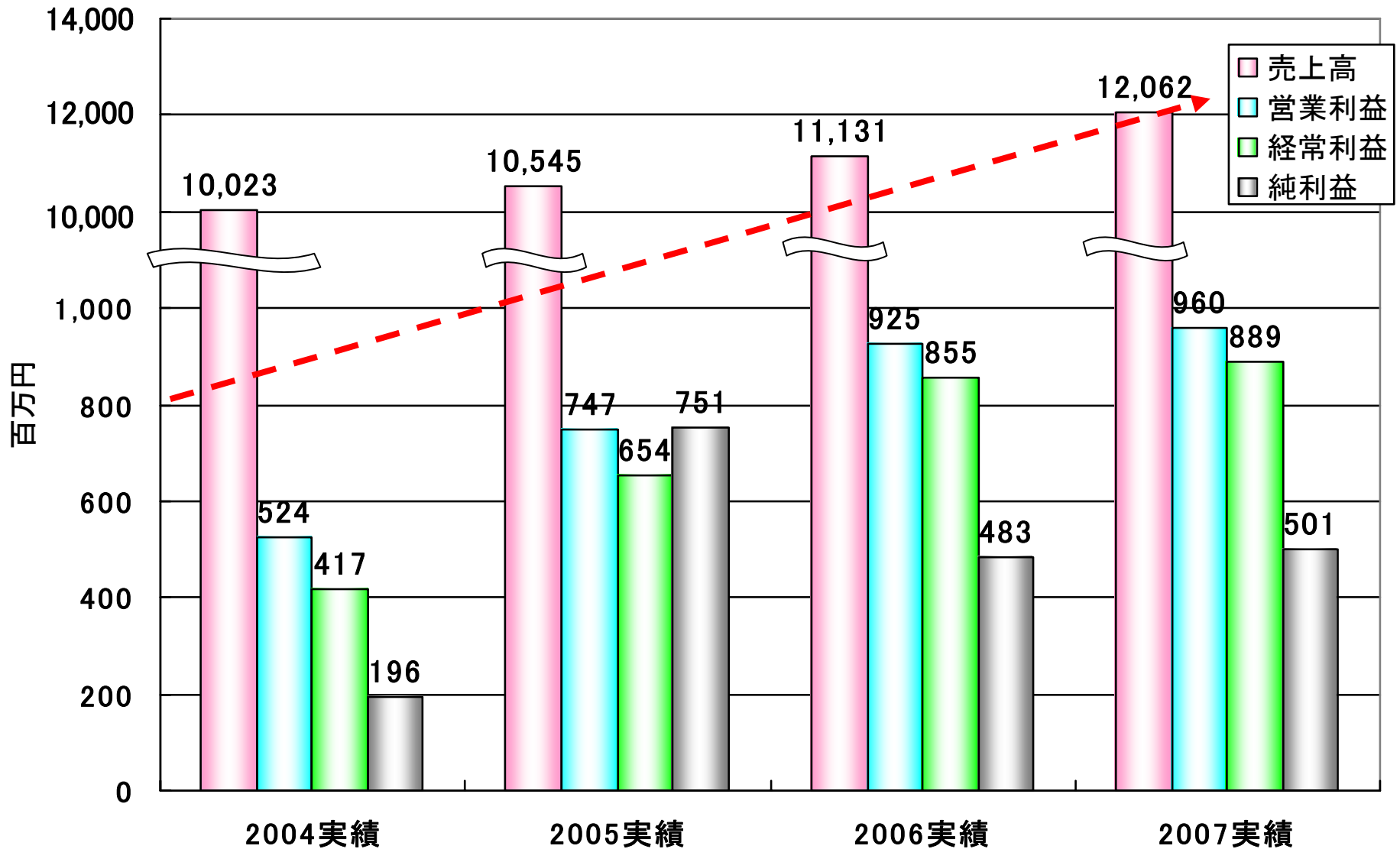


(当社製) 再加熱カート



(他社製) 再加熱カート

業績の推移(連結)

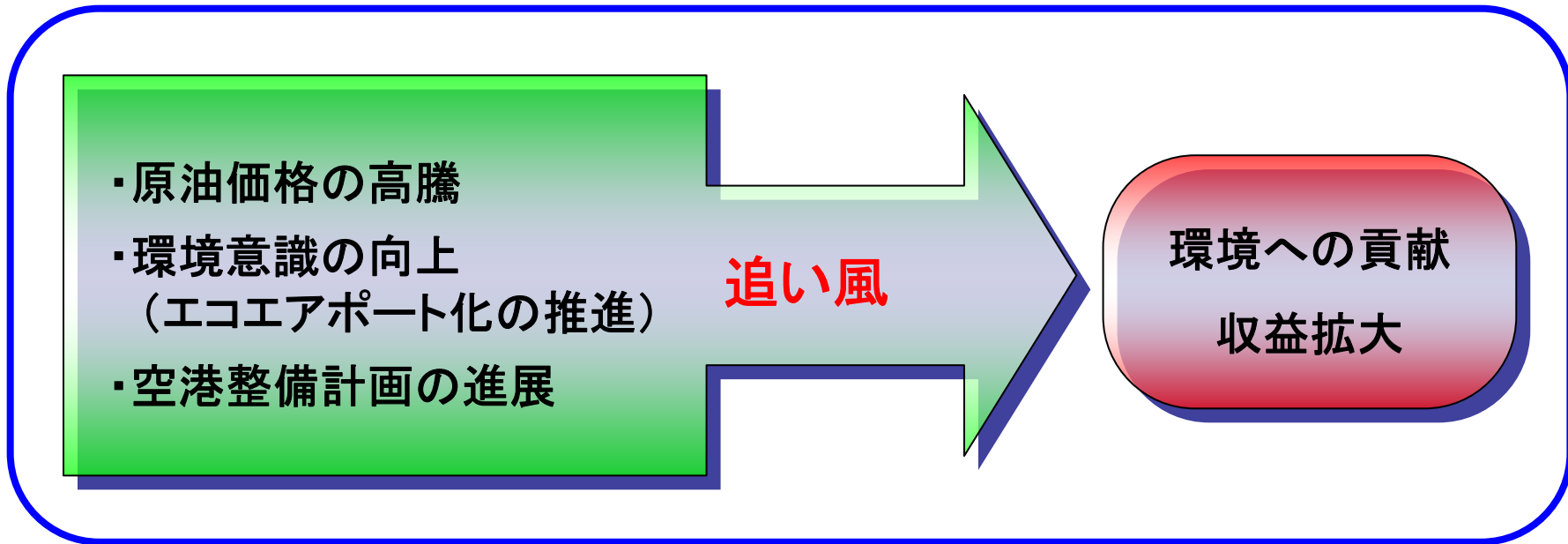




中期計画 (2008年度～2010年度)

動力事業の概況と今後の取り組み①

■ 動力事業の概況



【今期の特徴】

電気の使用増に加え、夏場のエアコンの使用が大幅に増加した。

『電力収入』：対前年 5%増

『エアコン収入』：対前年 41%増

動力事業の概況と今後の取り組み②

■ GPUを使用したことによる環境に対するメリット

燃料の削減
(2007年度実績)

・B777-200で年間約8,191往復相当
(15万キロリットル)の燃料を削減

東京

約820Km

札幌

CO₂の削減
(2007年度実績)

・東京ドーム 148杯相当
(年間35.9万トン)のCO₂を削減



騒音の低減

・APUの騒音を抑え、
空港周辺地域との共生



エコ
エアポート化に
貢献

動力事業の概況と今後の取組み③

空港整備計画の進展

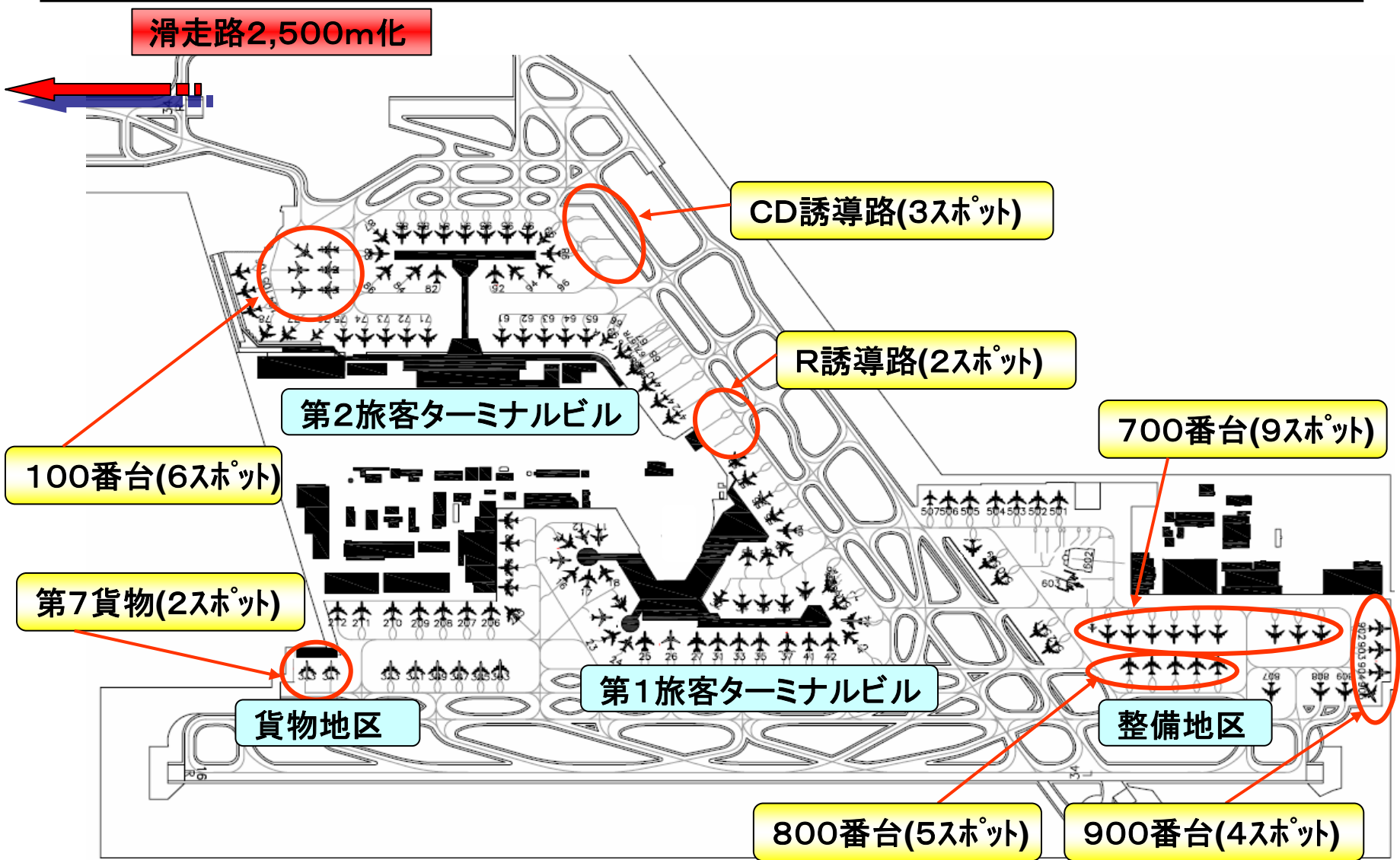
2007年 8月	関西空港第2滑走路供用開始
2010年 3月	成田空港平行滑走路 2,500m化
2010年10月	羽田空港第4滑走路供用開始 羽田空港新国際線ターミナルビル供用開始

年間発着枠：関西空港10万回増／年
：羽田空港11万回増／年
：成田空港3.5万回増／年

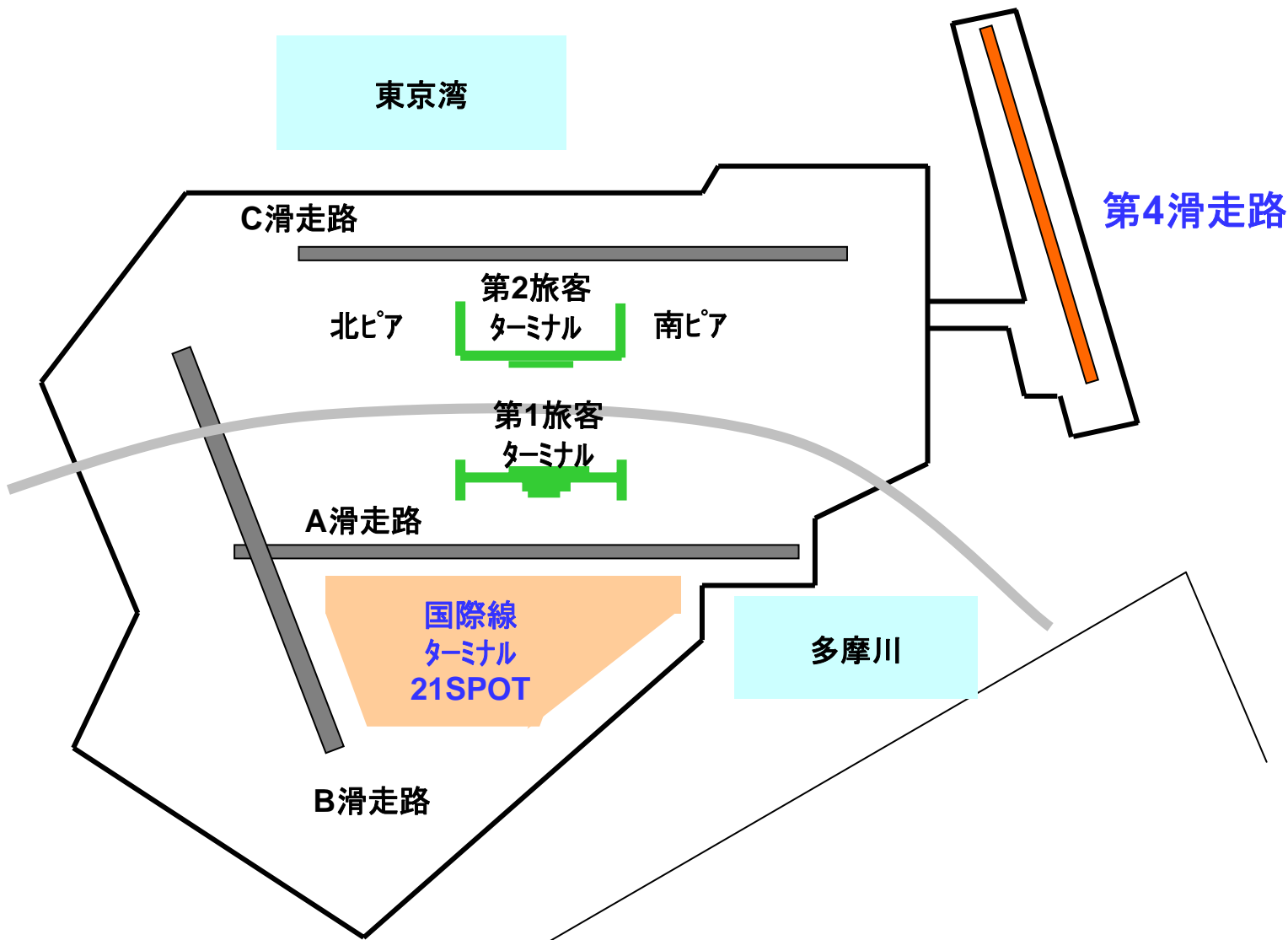
さらに、

動力設備の増強(空港整備・拡充による増強、準幹線空港進出)
新型航空機(A380、787)への設備対応と計画的な更新投資

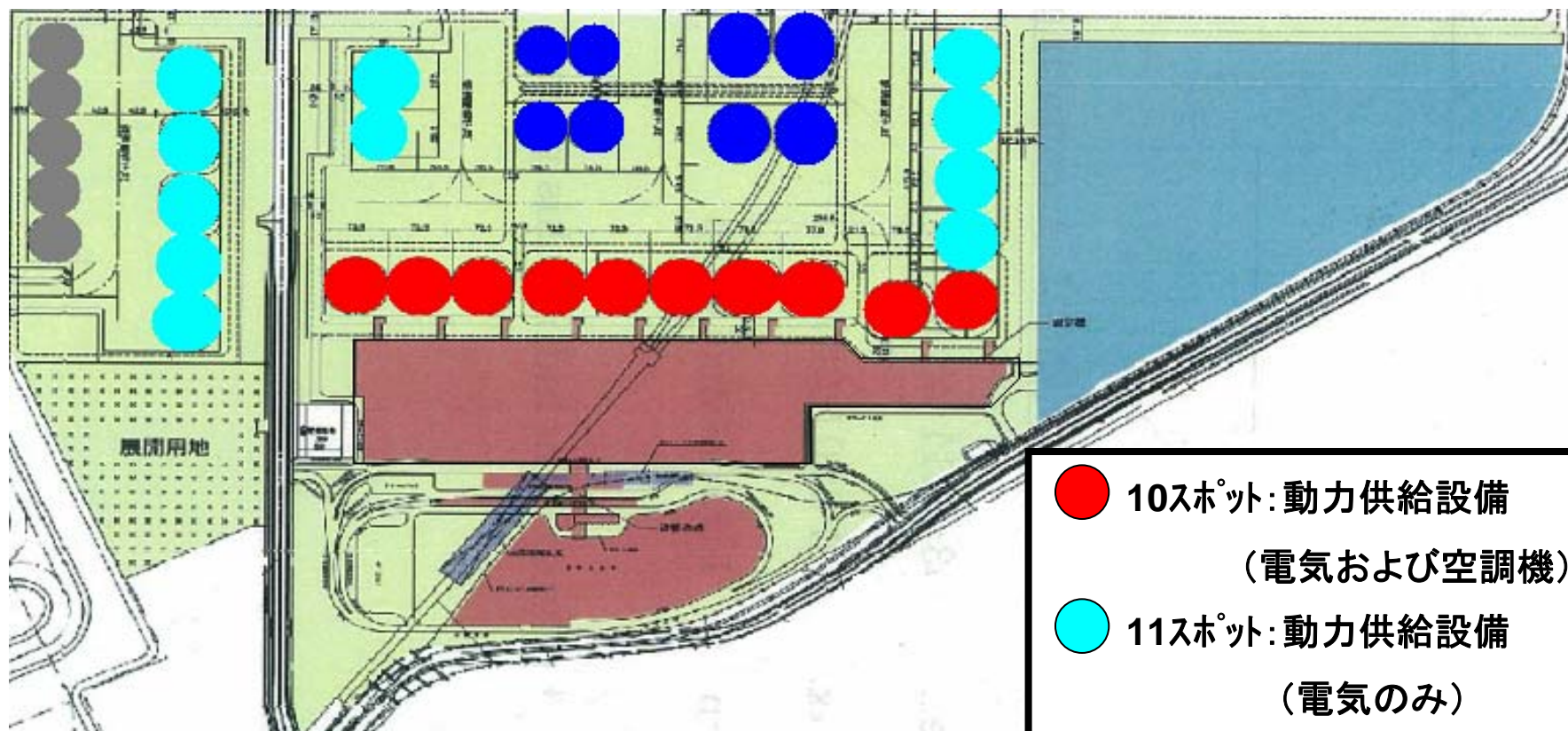
成田空港拡張概略図



羽田空港再拡張概略図



羽田空港再拡張概略図



2010年10月 供用開始予定
21スポットに動力供給設備を設置

2010年10月 羽田空港第4滑走路供用開始で
更に事業規模拡大(年間発着枠 1.4倍に)

- 10スポット: 動力供給設備
(電気および空調機)
- 11スポット: 動力供給設備
(電気のみ)
- 8スポット: 埋設管工事
- 5スポット: 未処置

整備事業の概況と今後の取り組み

■ 空港施設の拡充計画

2007年度

10月 関西空港 国際線の手荷物搬送設備インラインシステム供用開始

2008年度

4月 成田空港 第2ターミナルビル国際線の手荷物搬送設備インラインシステム供用開始

5月 成田空港 第2ターミナルビル旅客搭乗橋設備の大改修

7月 成田空港 第1ターミナルビル国際線の手荷物搬送設備インラインシステム供用開始

2009年度

10月 関西空港 国内線の手荷物搬送設備インラインシステム供用開始

12月 千歳空港 新国際線旅客ターミナルビルの供用開始

2010年度

10月 羽田空港 新国際線旅客ターミナルビルの供用開始

新国際線貨物ターミナルビルの供用開始

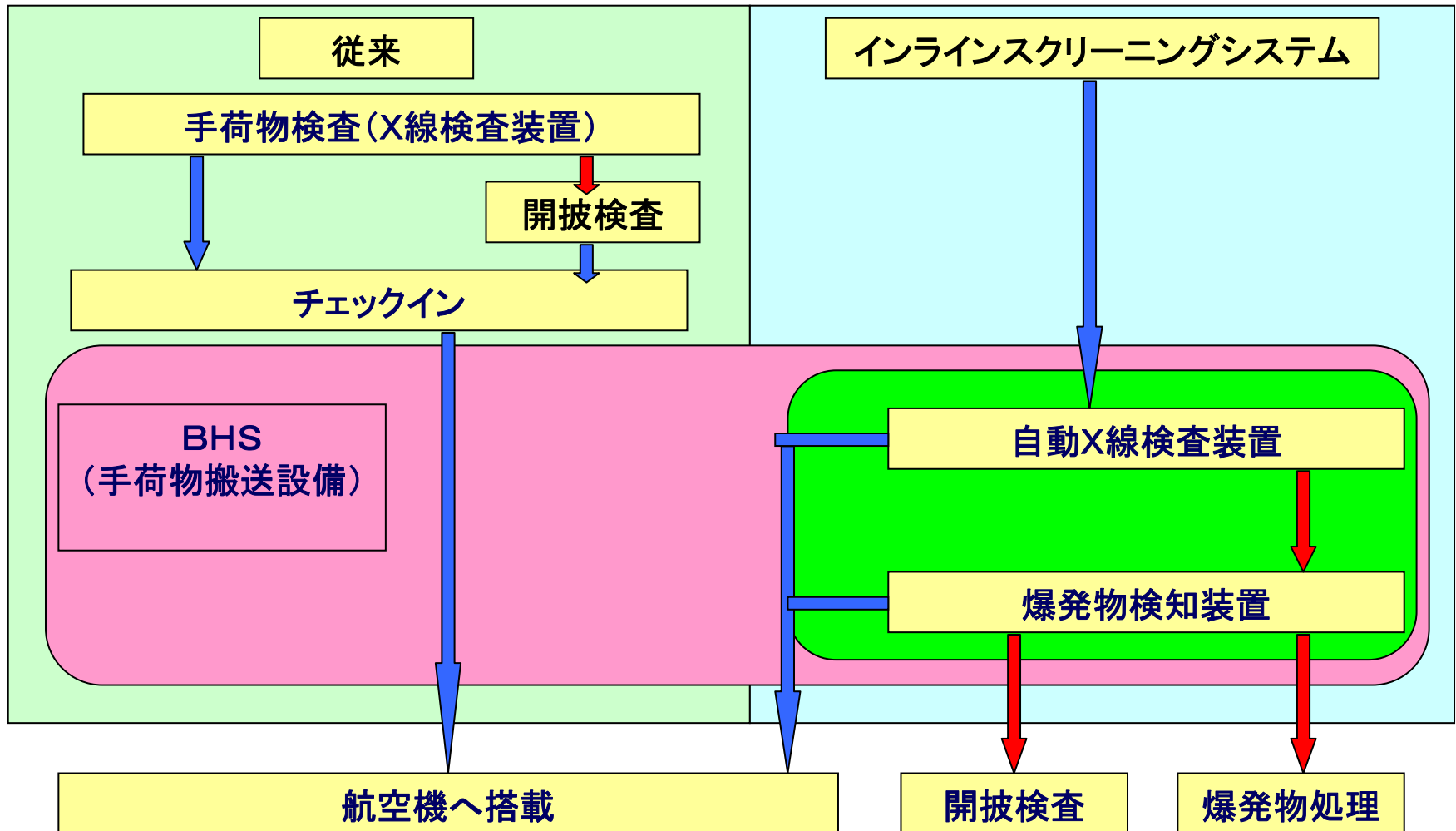
課題・取り組み

- 特殊設備管理業務の培った経験と技術を活かした積極的な提案型営業
- 24時間勤務体制の構築ができる強みを活かした受託業務拡大
- 物流設備メーカーとの連携強化した空港内外施設の受託拡大

整備事業の概況と今後の取り組み(参考資料)

■ インラインスクリーニングシステム

← NG
← OK



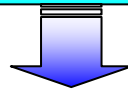
付帯事業の概況と今後の取り組み①

■ フードカート関係

- ①フードカートの販売台数が、2,480台突破。
- ②今年度中に、新たな新商品を開発し販売予定。



- ①国の法制度改定の影響を受け、病院・介護施設は苦しい経営状況となり、設備投資活力が縮小。
- ②クックサーブ(温冷配膳車)からクックチル(当社の再加熱カート)への移行遅れと、期待している買い替え需要が先送り。



- ①食の安全・サービス・コストダウンの追求がある限り、クックチルシステム／セントラルキッチンシステムは拡大傾向に。
- ②近い将来のカート販売チャンスに備えるため、ここ数年は売り上げ見込みに応じたフレキシブルな人員体制へ移行。

付帯事業の概況と今後の取り組み②

■ フードカート関係

新商品の開発

長期的な売上の拡大を目指すため、
顧客の要望を捉えた新商品の開発を行い、魅力ある商品を投入する

IH加熱カート(セパレートタイプ)

2008年度に販売開始！！

新商品の投入

特徴

- ・軽量コンパクトで配膳容易
- ・2台の配膳ユニット連結可能
- ・セパレートによる配備ユニットのコストダウン
- ・加熱能力の向上



IH加熱カート(新型)

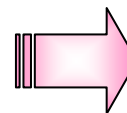
2009年3月を目処に！

新商品の開発

特徴

- ・低コスト化
- ・さらに軽量・コンパクト設計
- ・加熱能力の向上
- ・メンテナンス性の向上
- ・従来型との互換性を考慮した設計

さらに



中期目標

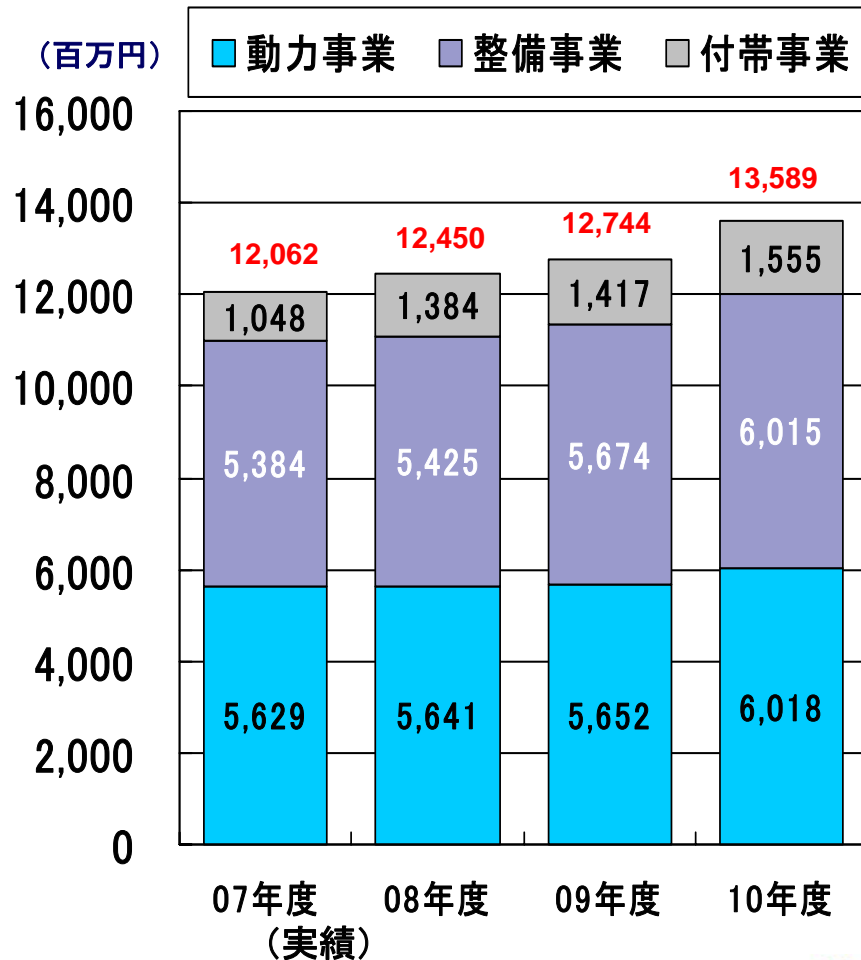
① 事業規模の更なる拡大と経営基盤の強化により、増収増益基調の維持を目指す。

② 目標とする経営指標『ROE』の10%達成を目指す。

③ 株主への安定的、継続的な配当を目指す。

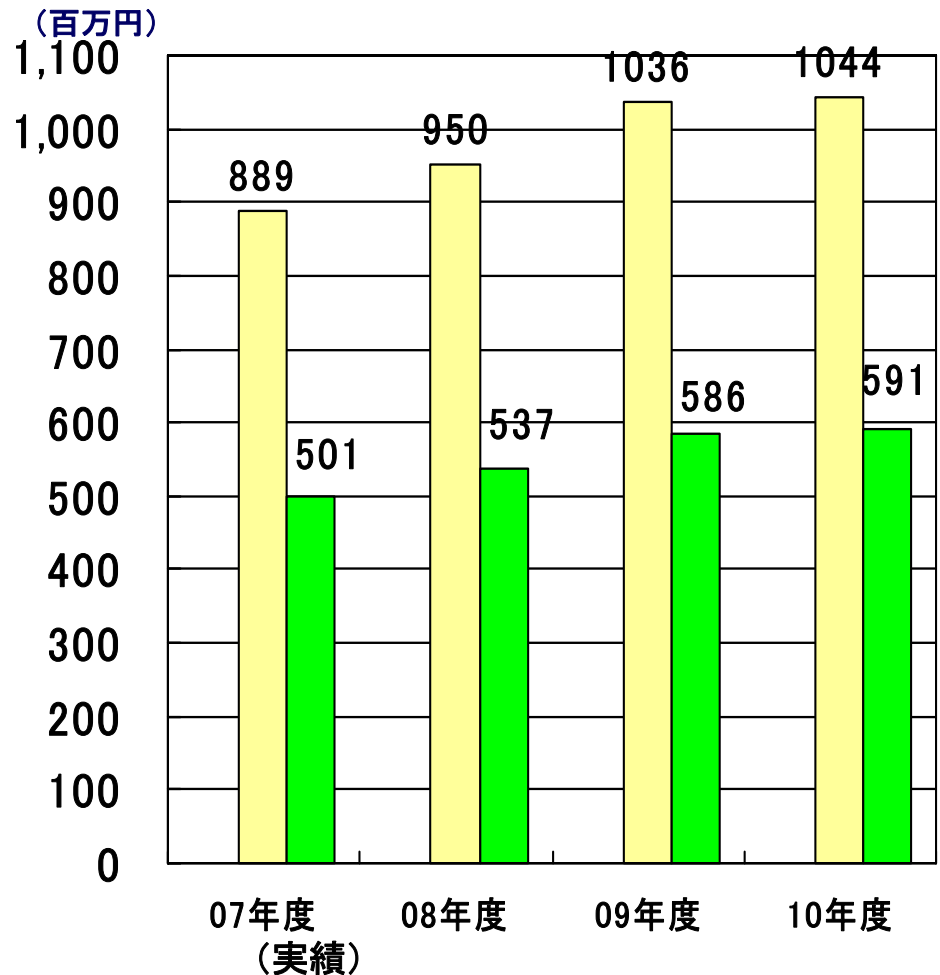
中期収支計画

売上高



経常利益

当期純利益



中期設備投資計画

- ・羽田空港、成田空港および関西空港への動力設備増設等の設備投資
- ・新型航空機(A380、787)への移動機材対応の設備投資
- ・既存の動力設備更新等の設備投資
- ・準幹線空港への設備投資
- ・フードカートのデモ機および金型製作等の設備投資

(単位:百万円)

項目	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
設備投資額	825	1,035	1,561	2,022
減価償却費	842	836	877	1,175

経営の基本方針

■ AGPグループのビジョン

社会からの信頼を受ける会社を目指し、
社会の繁栄と地球環境の浄化保全に貢献する

■ 経営方針

- (1) 安全の理念のもとに、良い品質とお客様が満足するサービスを提供する
- (2) コンプライアンスを徹底し、常に収益力の向上、生産性の向上、財務体質の強化を心がけ、会社の繁栄を図る
- (3) 得られた成果は、社会・株主・社員・会社へ還元する
- (4) 動力および整備事業は経営の根幹であり、更なる充実・拡大を図る
- (5) フードカート事業の拡大や新たな事業に取り組み、更なる経営基盤の強化を図る
- (6) 常に空港環境の向上を意識した取り組みを行う



2008年3月期 業績報告(連結)

2008年3月期業績

(単位:百万円)

	前期実績	当期実績	対前期比 増減	
売上高	11,131	12,062	930	108.4%
売上総利益	1,751	1,831	80	
販管費	825	870	45	
営業利益	925	960	34	
営業外損益	▲70	▲71	△1	
経常利益	855	889	33	103.9%
特別損益	▲4	▲11	△7	
税引前当期純利益	851	877	26	
当期純利益	483	501	17	103.7%

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

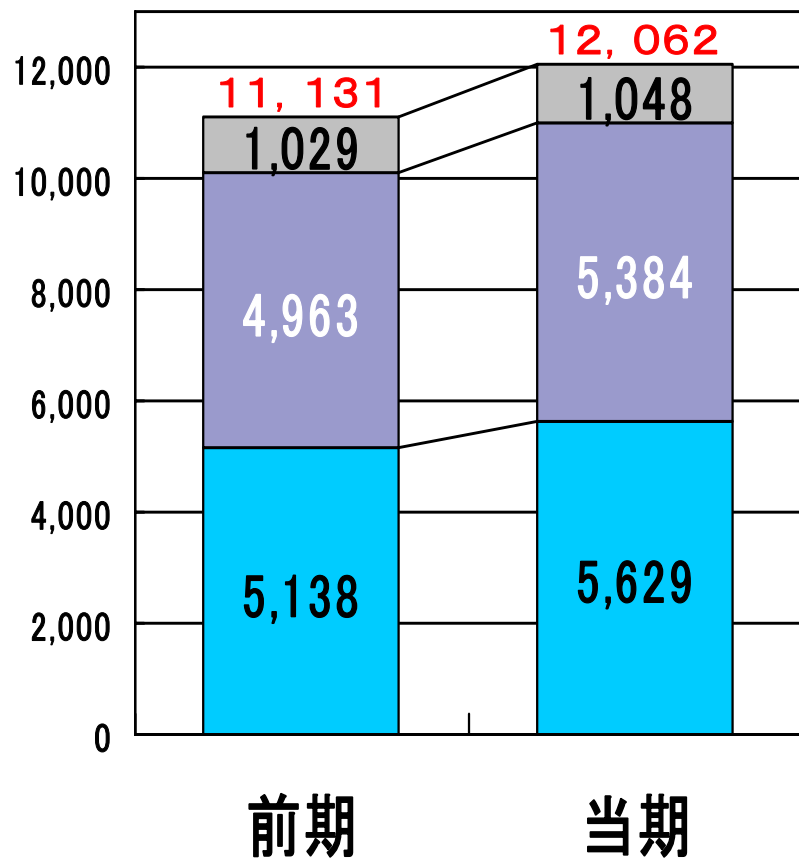
売上高 当期合計

12,062百万円

前期比 930 (108.4%)

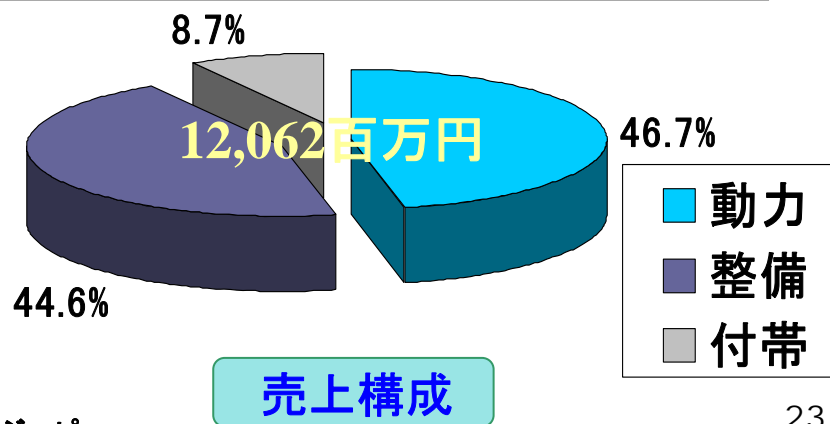
(単位:百万円)

■ 動力事業 ■ 整備事業 ■ 付帯事業



<増要因>

動力事業	+490	(109.5%)
整備事業	+420	(108.5%)
付帯事業	+ 19	(101.9%)
計	+930	

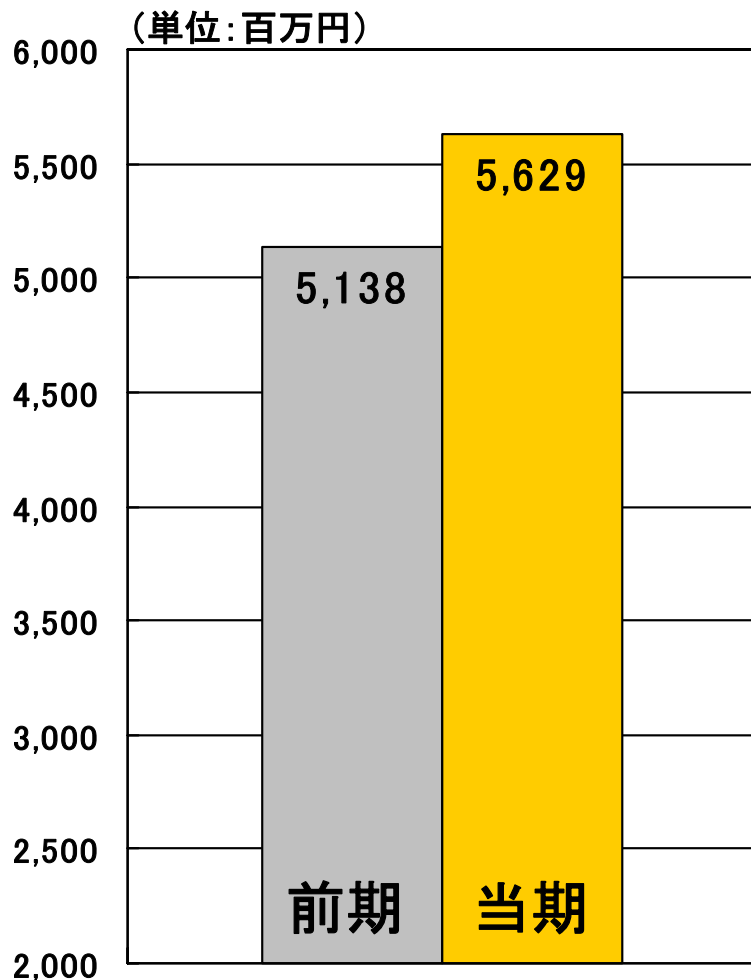


(注)百万円未満は切り捨てにより表示

売上高 ① 動力事業

5,629百万円

前期比 490 (109.5%)



<主な増要因>

- ① JALを中心とした GPUの使用増
- ② 成田空港貨物地区(7SPOT)供用開始
- ③ 羽田空港東側整備地区(4SPOT)供用開始
- ④ 熊本空港(4SPOT)供用開始

<支店別>

羽田	+302
関西	+ 77
成田	+ 69

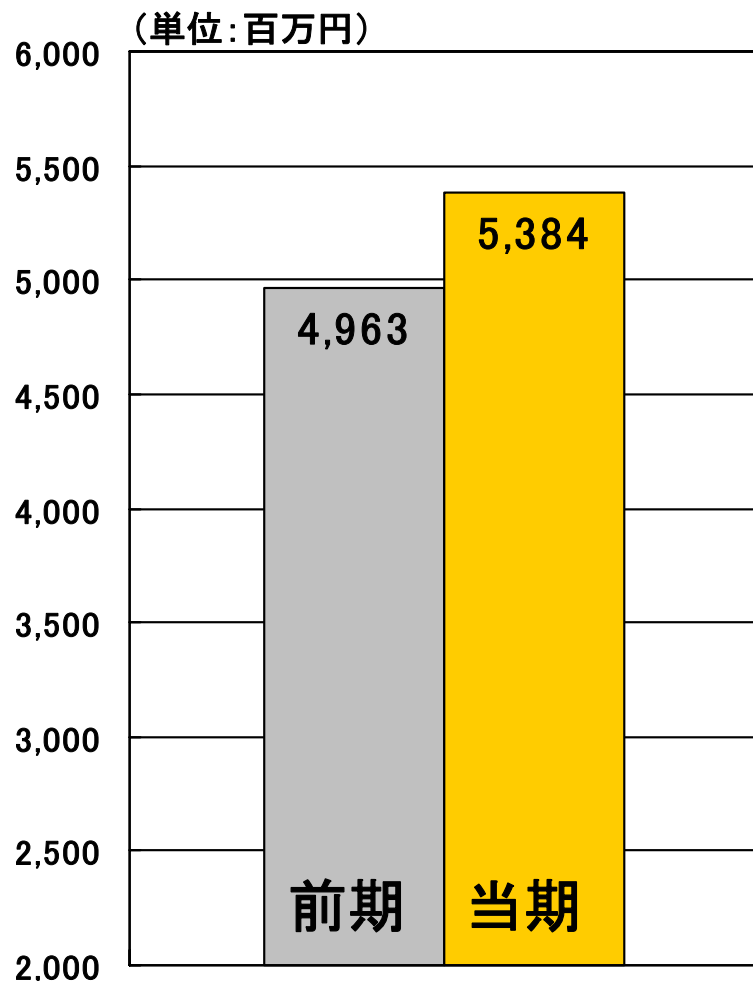
(注)百万円未満は切り捨てにより表示

売上高

② 整備事業

5,384百万円

前期比 420 (108.5%)



<主な増減要因>

(増加)

関西	+169	BHS受託業務の拡大 改修・更新工事の増 地方BHS点検・修理の増
羽田	+100	
成田	+30	

(減少)

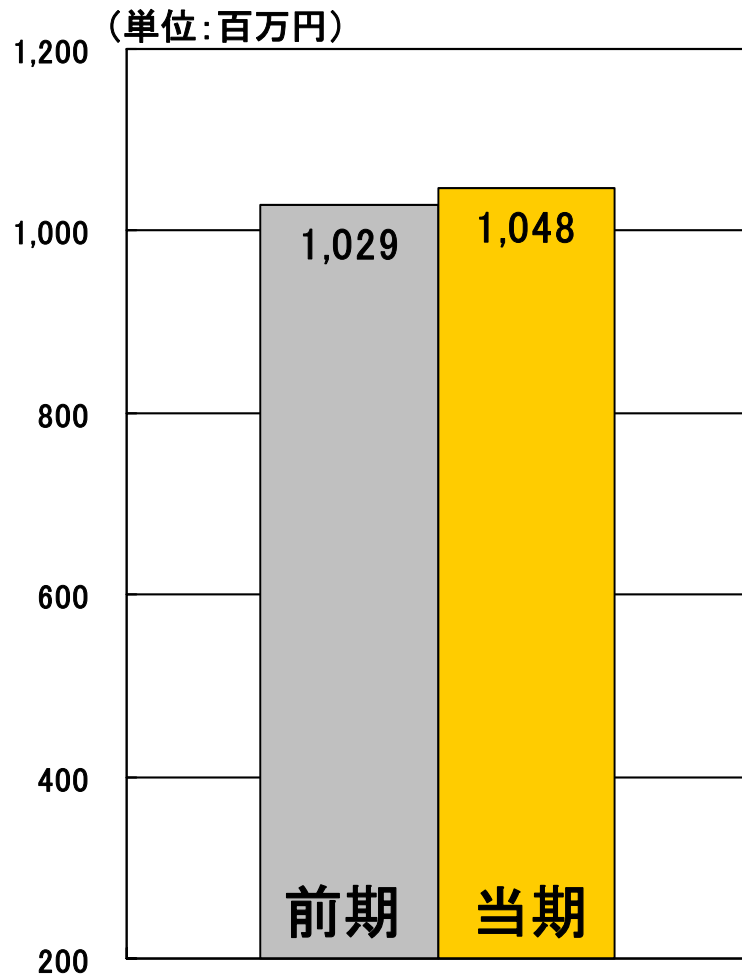
那覇	△ 28	ホテル保守契約の減
----	------	-----------

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

売上高 ③ 付帯事業

1,048百万円

前期比 19 (101.9%)



<主な増減要因>

(増加)

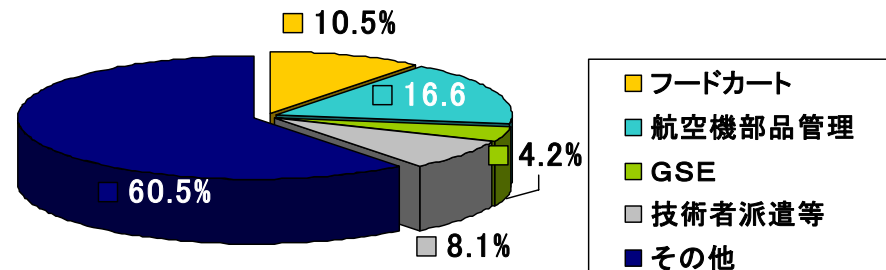
本社動力事業部

+162 航空機用電源装置等の販売

成田 + 22 ハイジャック防止設備の
保全業務の増

(減少)

△ 153 フードカートの販売



(注)百万円未満は切り捨てにより表示



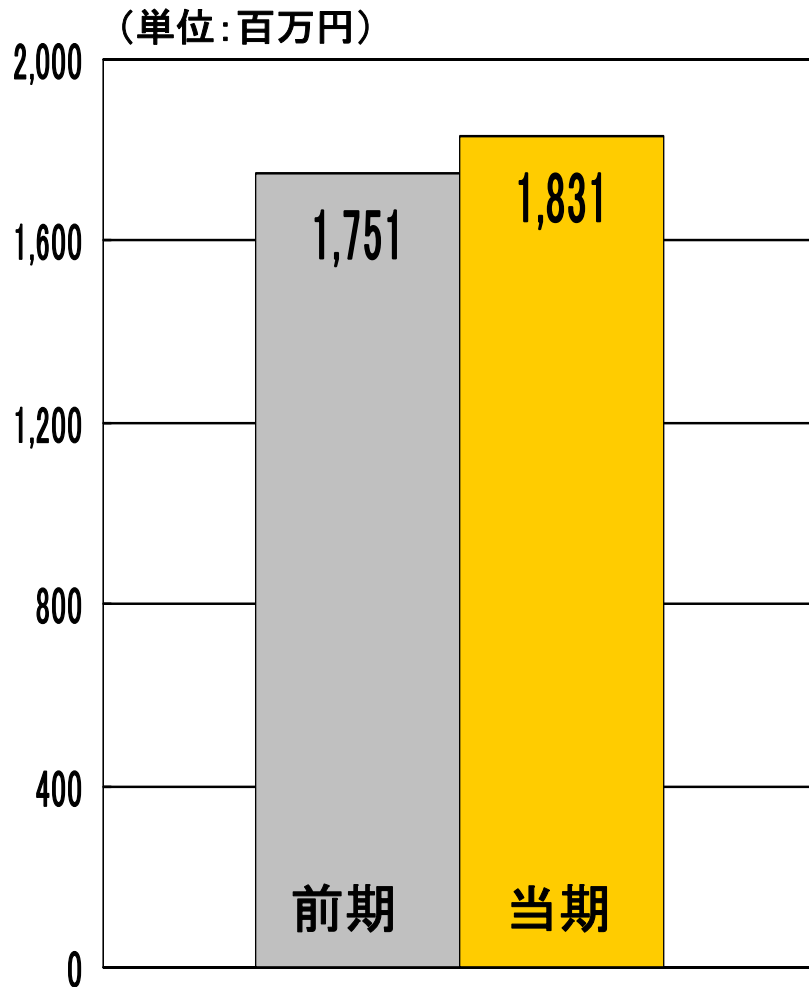
株式会社 エージーピー

[売上構成]

売上総利益

1,831百万円

前期比 80 (104.6%)



<セグメント別>

動力事業	53
整備事業	52
付帯事業	△26

<主な費用増要因>

原材料費	+483
労務費	+131
減価償却費	+117

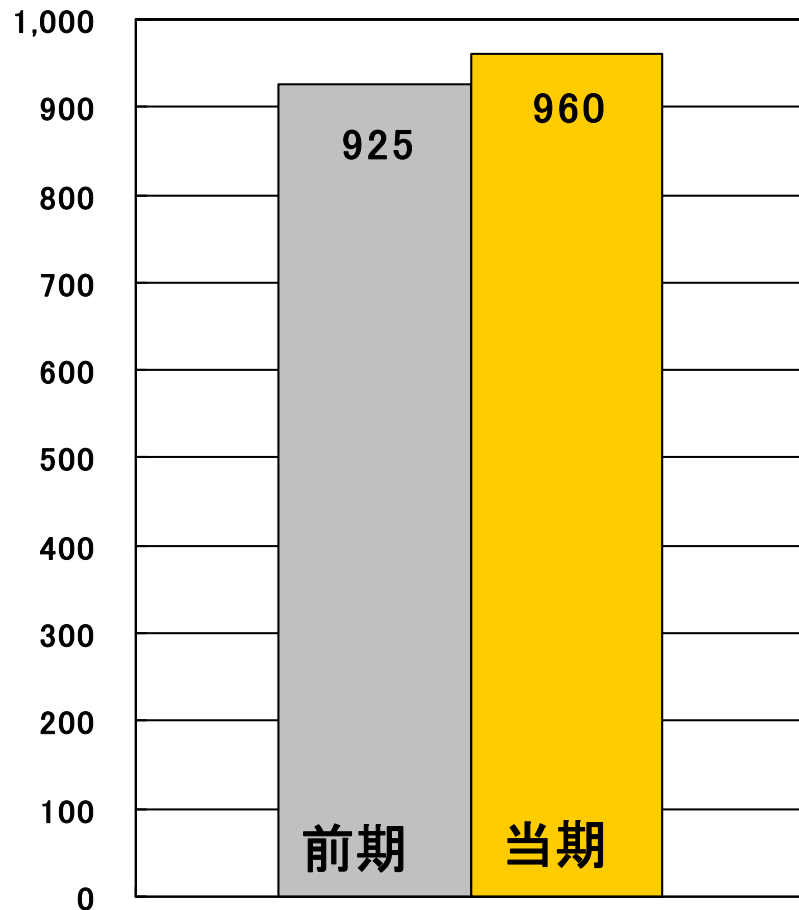
(注)百万円未満は切り捨てにより表示

営業利益

960百万円

前期比 34 (103.8%)

(単位:百万円)



<増減要因>

売上総利益の増 +80

販売費および
一般管理費の増 +45

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

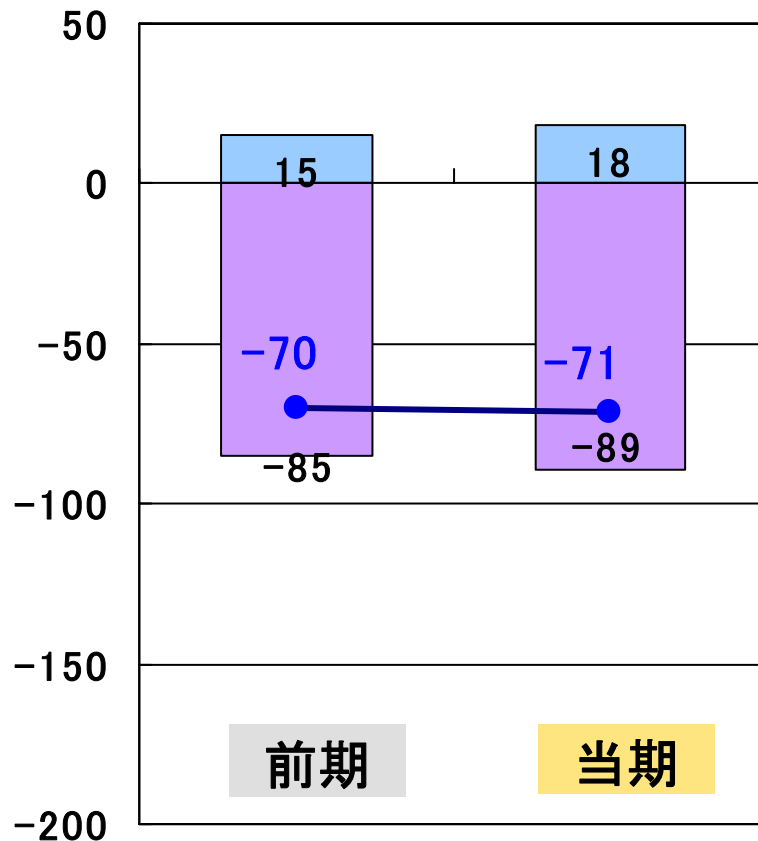
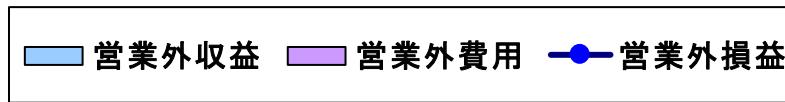
営業外損益と経常利益

営業外損益

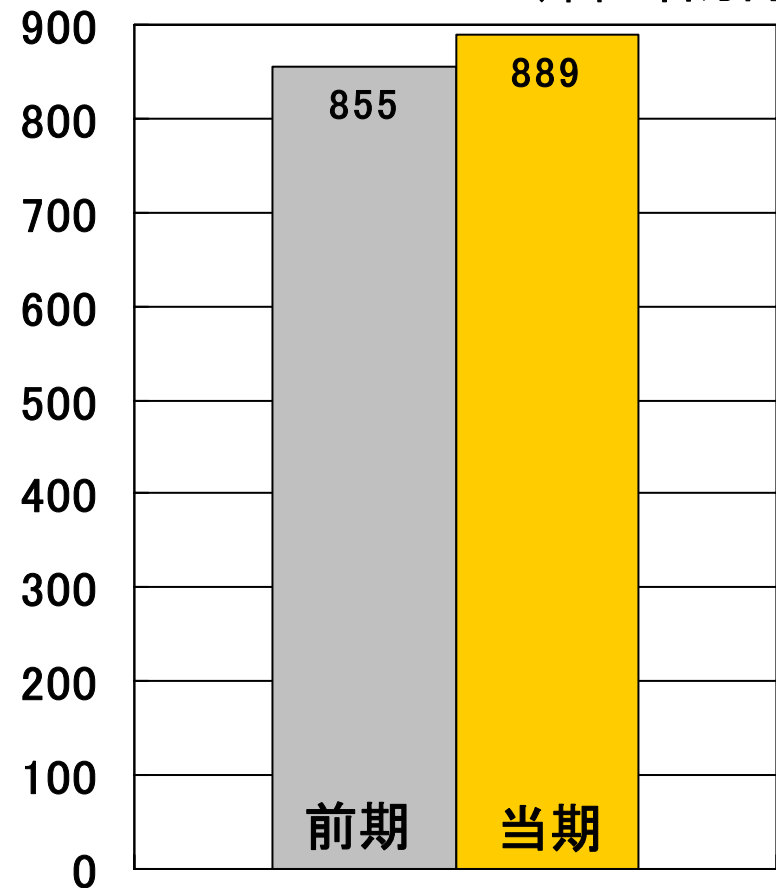
▲71 百万円 前期比 △1

経常利益

889 百万円 前期比 +33



(単位:百万円)



(注)百万円未満は切り捨てにより表示  株式会社エージーピー

2008年3月期業績

(単位:百万円)

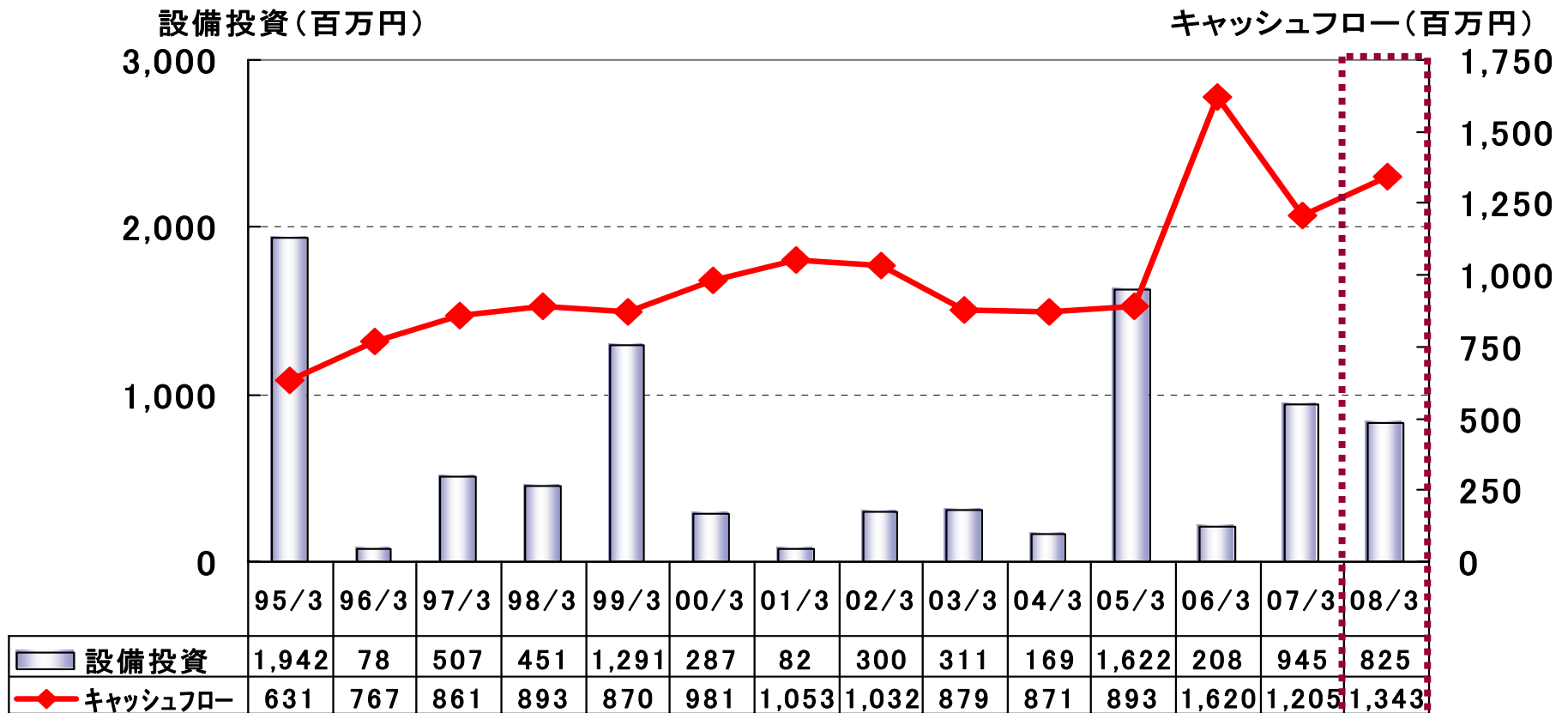
	前期実績	当期実績	対前期比 増減	
売上高	11,131	12,062	930	108.4%
売上総利益	1,751	1,831	80	
販管費	825	870	45	
営業利益	925	960	34	
営業外損益	▲70	▲71	△1	
経常利益	855	889	33	103.9%
特別損益	▲4	▲11	△7	
税引前当期純利益	851	877	26	
当期純利益	483	501	17	103.7%

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

設備投資とキャッシュフロー

'93/3 新千歳・成田Ⅱ期増設 '94/3 羽田西側新設 '95/3 関西新設 '99/3 那覇新設

'03/3 広島新設 '05/3 羽田第2PTB新設 '06/3 神戸・鹿児島新設 '07/3 熊本新設



(注)00/3より連結決算を開始、93/3～99/3は単独ベース

キャッシュフロー＝「当期純利益」＋「減価償却費」

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

2009年3月期 通期 業績見通し①

売上高(セグメント別)

(単位:百万円)

連結	上期予測	下期予測	通期予測	対前期比 増減
動力事業	2,811	2,830	5,641	11
整備事業	2,397	3,028	5,425	41
付帯事業	600	784	1,384	335
売上高計	5,809	6,641	12,450	388

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

2009年3月期 通期 業績見通し②

(単位:百万円)

	2008年3月期 実績	2009年3月期 予測	対前期比 増減
売上高	12,062	12,450	388
売上総利益	1,831	1,952	120
販管費	870	945	75
営業利益	960	1,006	45
営業外損益	▲71	▲55	15
経常利益	889	950	61
特別損益	▲11	▲7	4
税引前当期純利益	877	943	66
当期純利益	501	537	36

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

本日は、弊社決算説明会にご参加いただき
ましてありがとうございます。

本日配布いたしました資料に記載されている
将来の業績予想は、経営環境の変化などに
伴い予想あるいは目標対比が変化し得ることに
ご留意ください。

お問合せ先

株式会社エージーピー 総務部 広報・IRグループ

電話:03-3747-1631

FAX:03-3747-0707

URL: <http://www.agppgroup.co.jp>

(会社案内ビデオがご覧いただけます)

